



逆風のなか4議席―それでも平和と暮らし守る旗は下ろさない

2月8日投開票の総選挙で、日本共産党は前回8議席から比例4議席と、前回より後退するきびしい結果となりました。一方、自民・維新などが衆議院の3分の2を超える議席を占め、憲法改定や大軍拡を進める危険な状況が生まれています。結果を直視し、教訓を力に、地域から再出発します。



田村 智子



塩川 鉄也



はたの 君枝



辰巳 孝太郎

2月8日投開票の衆議院総選挙で、日本共産党は比例代表で251万9千票（得票率4.40%）を獲得し、4議席となりました。前回の7議席から3議席減らす結果となりました。

小選挙区の沖縄1区では議席確保をめざし、自民党は小選挙区と、自民党は小選挙区

共産党の得票（鹿児島県市町村別）				
市町村名	衆議院選挙		参議院選挙	
	第51回（今回）	第50回（前回）	市区町村名	昨年の参院選
	日本共産党	日本共産党		日本共産党
鹿児島市	6,888	9,353	鹿児島市	7,852
鹿屋市	618	901	鹿屋市	759
枕崎市	220	313	枕崎市	189
阿久根市	229	246	阿久根市	199
出水市	638	761	出水市	614
指宿市	520	611	指宿市	431
西之表市	205	219	西之表市	215
垂水市	200	289	垂水市	247
薩摩川内市	826	1,198	薩摩川内市計	857
日置市	466	506	日置市	502
曾於市	452	618	曾於市	536
霧島市	1,098	1,388	霧島市	1,223
いちき串木野市	262	315	いちき串木野市	244
南さつま市	487	616	南さつま市	417
志布志市	268	371	志布志市	328
奄美市	870	1,110	奄美市	813
南九州市	448	589	南九州市	421
伊佐市	313	390	伊佐市	300
姶良市	770	912	姶良市	814
三島村	1	1	三島村	2
十島村	14	7	十島村	9
鹿児島郡	15	8	鹿児島郡計	11
さつま町	148	190	さつま町	154
長島町	104	134	長島町	80
湧水町	63	89	湧水町	73
大崎町	114	195	大崎町	120
東串良町	95	117	東串良町	87
錦江町	24	40	錦江町	37
南大隅町	51	59	南大隅町	52
肝付町	106	128	肝付町	129
中種子町	69	77	中種子町	73
南種子町	46	57	南種子町	49
屋久島町	237	262	屋久島町	213
			大和村	37
			宇検村	24
得票合計	16,865	22,070		18,050

樋脇町城内の市道凍結問題 県道からの流水対策を協議中

こちらの相談所
(No. 639)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

道（城内山中線）で、朝方の路面凍結によりバイクが転倒する事例がありました。現地では、県道法面からの水が空地を流れて市道に流れ込み、凍結している可能性があります。薩摩川内市道路河川課は、「県道法面の水が市道に流れ込まないようにはできないか、関係者と協議を進めている」と回答しました。

これは原因対策に踏み込んだ重要な内容です。あわせて応急措置として「凍結注意」看板を設置予定としています。根本対策の実現が待たれます。朝夕の通行には十分ご注意ください。

困ったときは、「制度だから」とあきらめず、事情を具体的に伝えて相談することが大切です。

249議席、比例67議席の計316議席を獲得しました。日本維新の会は36議席となりました。両党などを含む勢力が、衆議院の3分の2を超える議席を占めています。

自民党の比例代表での得票率は36.7%でした。

今回の総選挙は、解散から投票日まで16日間という短期間で実施され、高市氏の個人的支持率の高さだけに終始し、国民には明確な論点が表示されませんでした。

日本共産党は選挙戦で、物価高対策、医療・介護の負担軽減、外交・安全保障政策の転換などを訴えました。党は今後、選挙結果について総括を行います。

（なお、鹿児島1区・2区の開票結果は2面に掲載しています。）

井上市議のコメント

井上勝博市議は、今回の総選挙の結果について次のように述べました。「九州・沖縄で赤嶺政賢さんと田村貴昭さんの議席を失ったこと

（2面に続く）

(1面につづく)

は痛恨の極みです。日本共産党が4議席に後退したことは重く受け止めています。ご支援いただいたみなさんの期待に十分こたえられなかったことは率直に反省すべき点です。一方で、衆議院では改憲勢力が3分の2を超える議席を占める状況となりました。今後の国会論戦や政策の動向を、冷静に注視していく必要があります。市政の現場では、物価高や医療・介護の負担

担、子育て支援など、市民生活に直結する課題が山積しています。国政の動きにかかわらず、地域の声を市政に届ける役割を果たしていきます。」

鹿児島1区		鹿児島3区	
(当)みやじ拓馬	92,321	(当)野間 たけし	88,518
46歳 自由民主党		67歳 中道改革連合	
川内 ひろし	57,262	(比)小里 康弘	85,782
64歳 中道改革連合		67歳 自由民主党	
(比)まきの俊一	27,071		
40歳 参政党			
鹿児島2区		鹿児島4区	
小山 慎之介	4,228	(当)森山 裕	102,727
42歳 日本共産党		80歳 自由民主党	
(当)みたぞのさとし	115,396	中村 寿	24,076
67歳 自由民主党		59歳 国民民主党	
高橋 徳美	35,570	桐原 郁生	22,211
56歳 参政党		57歳 参政党	
まつざき真琴	17,543	伊藤 周平	15,329
67歳 日本共産党		65歳 社民党	

エプロンおばさんの簡単フッキング (693)



豚肉のシチュー

材料 (2人分)

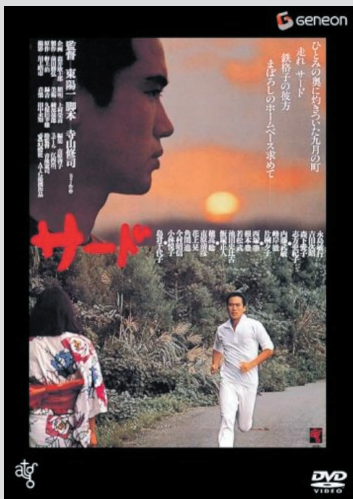
豚肉(しゃぶしゃぶ用か薄切り) 200g、ニンジン(小) 1本、玉ネギ ½ 個、ジャガイモ(小) 2個、キャベツ ¼ 個、ショウガの薄切り(皮つき) 4〜5枚

作り方

①ニンジンは5ミリの輪切りに、玉ネギは1センチ幅に、キャベツは4センチ角に切る。豚肉は二つ切り、塩小½を振る。
②鍋に水4カップとニンジン、玉ネギ、ジャガイモを入れて強めの中火にかける。煮立っ

てきたらキャベツとショウガを加え、豚肉を1枚ずつ入れる。
③イモがやわらかくなったら味をみて、塩・こしょうで味を調える。

No. 69 シネマ太郎の映画評と案内 サード(1978)



サード



旅の終わりの
たからもの

映画監督の東陽一が1月21日に91歳で、長谷川和彦が1月31日に80歳で亡くなりました。近年は発表作はありませんでしたが、このふたりの監督の映画はいずれも独特の個性があり、みる人に強い印象を与えると思います。死去を報じます。死去を報じる新聞の記事は意外に小さく、テレビのニュースでも報じられていないようで残念です。ふたりの監督作のうち私が好きな作品を1作ずつ取り上げたいと思います。まずは東陽一監督。20本以上の監督作のうち6作目と思われる「53」年公開の「サード」。私は数年後の再上映でみました。が、劇映画なのにセミドキュメンタリーとでもいうのか、乾いていて生々しいというような感じに驚きました。最初に、ある少年院の1日がドキュメンタリーのように描かれます。入所している少年たちの無表情な顔。冷めた目つき。係官の号令で移動する足。独房のような部屋でひとりたたくむ高校生の妹尾新次(永島敏行)は野球部で三塁手。あだ名がサード。なぜ彼は少年院に入所することになったのか。関東地方の小さな町の高校。サード、II田(二田) (吉田次昭)、新聞部(森下愛子)、テニス部(志方亜紀子)の4人は気のあう仲間。こんな小さな町なんか出て、どこか大きな町に行こう。それにはお金が必要だ。みんなでお金を稼ごう。方法は? それは、売春をすることなのです。休日になると駅に集合し、電車で大きな町まで出て、サード・新聞部、II田・テニス部の二組に分かれ、サードとII田は街を行きかう男性相手にせつせと客引きに励むのです。やがて、ある男性客とトラブルになり、予想もしないことが起こります……。脚本は寺山修二。少年院の少年が時折つぶやくように読む短歌が印象的です。感情移入しない、あえて距離を置いたような描き方が少年たちの虚無感を際立たせます。配信でみることもできますが、追悼上映を期待します。1978年度キネマ旬報ベストテン第1位。ほか多くの賞を受賞。さて気になる次の映画は、「旅の終わりのたからもの」(2/11〜2/20、ガーデنزシネマ)です。

中俣先生のつれづれなるままに (824)



←中俣先生のブログはこちら

ぼくらが住む村から川内市につながらる道を「中道(なかつちみち)」と呼ぶ。左右は田んぼが広がり、ぼくらはその道を歩いて川内北中、川内高校に通った。それこそ辞書通りの「中道(真ん中の道)」。道はバス一台がようやく通るくらい狭い道で、途中二か所に湾曲した「よけ場」が設けられてバスをやり過ごし、それができるときは田んぼのなかに駆け込んだ。この「中道」にもう一つの呼び名がある。「ちゅうどう」がそれである。辞書的な意味は「極端に走らない中正(立場が偏らず正しいこと)の立場」ということになる。この「なかみち」ならぬ「ちゅうどう」を掲げた政党が、国会解散を前にして現れた。立憲民主党と公明党との合体がそれである。果たして、政治の世界に中道があるのか。あるとすれば、財界本位の政治か、アメリカ言いの政治かということではないか。ぼくらが通った「なかみち」は、春は菜の花、秋は黄金の稲穂が左右に広がり、まさに「なかみち」だった。「ちゅうどう」は偏らない道だという。だったら左右に広がる景色は何なのか。財界にも、アメリカにも偏らない政治がありうるのか。国民の生活を中心に置くというが、その生活も、財界やアメリカの影響を受けている。防衛費の増額や、株式本位の経済がその例である。政治の世界には財界よりか、アメリカよりかはあったとしても、「ちゅうどう」はあり得ない。今度の選挙。ありえない世界に惑わされてはならない。(詩愛好家)